

日本情報科教育学会 第9回全国大会

第9回全国大会実行委員長 矢野 宏彦(愛知県立千種高等学校)
(愛知教育大学)

1. はじめに

日本情報科教育学会(JAEIS)第9回全国大会は、愛知県刈谷市の刈谷市産業振興センターを会場として、6月25日(土)・26日(日)の2日間にわたり開催いたしました。

今大会は、いままでの第1回から第8回の大会とは異なり、大学を会場とするのではなく、初めての一般の会場での開催であります。また、大会実行委員長も大学の先生ではなく、高校の教員出身としてのわたくしが務めることとなり、今後の大会の試金石になればという初めての試みでもありました。愛知県としては、初めての開催ではありましたが、東海・中部支部としては、第5回の信州大学につづき、2回目となります。この開催を契機に東海・中部支部の情報科教育のさらなる活性化に繋がってほしいと考えています。

まもなく、中央教育審議会の答申も実施され、次期学習指導要領の告示も目前に迫っています。高等学校で情報科が始まって以来、2回目の学習指導要領改訂により、情報科がどのように変遷していくかを注視しなければならない時期になってまいりました。第8回の山口大会でその姿がわずかに見えてきていた後、さらなる検討により、情報科がどのように形作られていくのか、しっかり

と見極めていかななくてはなりません。今は、情報科教育の今後がますます重点的に議論される時期であります。それを踏まえて、今大会はテーマを、「情報科に求められる教育と情報科が目指すべき教育」といたしました。新しい情報科編成を意識した教育手法および評価方法、アクティブ・ラーニングの視点から考える情報科教育、大学入学者選抜の改革における情報科の位置付け、情報科で育成する力の共通認識の形成など、我々のこれからの情報科教育がどうあるべきかが討論された大会になりました。情報科の重要性が、今後ますます高まることを目的とする大会であったように思います。

2. 大会の概要

大会の会期2日間を通じて、174名の参加となりました。各講演・研究発表・ブリーフプレゼンテーション・ポスター発表・デモンストレーション発表・パネルディスカッションにおいて、活発な意見交換が行われました。

基調講演：1件
招待講演：2件
研究発表：65件
支部セッション発表：4件
ポスター発表：9件(内デモンストレーション5件)
企業展示：15件
大会論文集への企業広告：10件



写真1 刈谷市産業振興センター

開催校である愛知教育大学の所在地である愛知県刈谷市のご協力を得て、JR刈谷駅前の刈谷市産業振興センターを会場としてお借りできました。JR刈谷駅は、JR名古屋駅から約20分と利便性に富んだ場所でもあり、全国からの参加者の

皆様から大変なご好評をいただきました。開催地として誠に嬉しく感じております。さらに、地元の企業を代表して、デンソー様からは、企業広告を含め、懇親会場であるD-スクエアの使用、パネリストとして、デンソー工業学園学園長の松井茂樹様の参加など、あらゆる面でご支援をいただきました。あらためまして、この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

3. 基調講演・招待講演

1日目の午後からは、総会に引き続き、開催校挨拶ということで、愛知教育大学の後藤ひとみ学長よりご挨拶をいただきました。

基調講演は、本学会会長の岡本敏雄先生（京都情報大学院大学／電気通信大学）に、「高校教科“情報”の国家的意味とその充実」をテーマにお話いただきました。前日、外国の視察から帰国されたばかりの岡本先生は、お疲れの様子などは全く見せず、精力的に、歴史的な視点と国際的知見をもとに、これからの教科“情報”のあり方について、熱く話しされました。

招待講演Ⅰは、文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 の新津勝二様より、「教育改革の方向性と教育の情報化」という題目でご講演をいただきました。新津様には、昨年の山口大会においてもご講演をいただきましたが、昨年の夏以降に中央教育審議会各部会から示された「学習指導要領改訂」と「高大接続改革」など

に関する大きな国の教育改革について、その方向性と今後の教育の情報化をどう推進すべきか、現状と課題を明らかにしていただきました。

引き続いての招待講演Ⅱでは、国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 の鹿野利春様より、「高等学校共通教科『情報』の検討状況」という題目でご講演をいただきました。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会情報ワーキンググループの検討を中心に、今現在われわれが聞くことができる内容をお話ししていただきました。特に、次期学習指導要領で共通必修科目である「情報Ⅰ（仮称）」について、選択科目である「情報Ⅱ（仮称）」について内容とイメージを詳しくお話しいただきました。「情報Ⅰ（仮称）」・「情報Ⅱ（仮称）」に共通した学び方についても提示いただいて、講演後は、聴講者からもたくさんの質問がありました。

4. 研究発表

研究発表は、1日目午前中は、A～C会場で19件、2日目午前中は、A～D会場で45件の発表がありました。セッションは、「カリキュラム・教材」「情報科の考察・評価」「教員養成」「問題解決と評価」「プログラミング教育」「社会と情報」「情報の科学」「高大連携」「教育の情報化」「タブレット端末とメディア・リテラシー」に分けて行いました。各会場ともたくさんの方々が参加され、質疑応答では活発なやり取りが見られました。

5. ポスター発表、デモンストレーション発表

ポスター発表は4件、デモンストレーションは5件行われました。広い大きな会場を設定したことと、ポスター発表のコアタイムを他の研究発表と重ならないように設定したことにより、多くの方に参加していただきました。

6. 支部セッション

東海・中部支部の支部セッションは、「次期学習指導要領情報科に関する国際的比較」をテーマ



写真2 招待講演Ⅰ

として特別枠で開催しました。愛知教育大学において情報教育について研究を行っている、中国とシンガポールからの教員研修留学生のお二人からそれぞれの国の情報科の「情報の科学的理解」に関する現状をお話いただきました。また、愛知県の情報科で採用された教員のプログラミング指導の現状が発表され、アジアにおける情報科の国際比較を行いました。さらに、平成29年度の全国の教員採用試験（47都道府県・20政令指定都市）で情報科の教員の募集が行われているのは、14の都道府県と1つの政令指定都市だけであるとの資料が提示され、現状の情報科が置かれている立場が明らかにされました。

7. パネルディスカッション

パネルディスカッションは、「地域社会が情報科に求める教育と、教育現場が考える情報科が目指すべき教育」をテーマにして、2日目の午後には大会の締めくくりとして開きました。コーディネーターは、矢野宏彦（実行委員会委員長、愛知県立千種高校・愛知教育大学）、パネリストは、鈴木直樹様（刈谷市前副市長）、松井茂樹様（デンソー工業学園学長）、香山瑞恵先生（東海・中部支部支部長、信州大学）、水野修治先生（実行委員会副委員長、愛知県立岡崎商業高校）で、各パネリストの発表後にディスカッションを展開しました。

まず、鈴木様と松井様より、「地域社会が情報科に求める教育」についてのご意見の発表がありました。香山先生と水野先生からは、「教育現場が考える情報科が目指すべき教育」についてのご意見の発表がありました。その後、松井様からはデンソー工業学園では、「問題解決能力」より「課題形成能力」を大事にしているというお話があり、この「課題育成能力」と「人材の育成」「地域との連携」の3つがキーワードとなった内容となりました。フロアの皆様からも貴重なご意見をいただくことができ、あっという間の2時間20分間のパネルディスカッションでした。

このパネルディスカッションは、一般公開とさ

せていただきました。事前には、「刈谷市だより」によって市民の皆様にご覧いただき、数多くはありませんでした。一般の方の参加もありました。

8. 大会運営に関するコメント

前述のように、会場の刈谷市産業振興センターは、非常に利便性の高い施設であり、また、企業城下町といえる刈谷市の特徴から駅や会場周辺にたくさんのビジネスホテルや昼食のための飲食店も散在していて、参加の皆様から大変好評を得ました。反面、大会運営側としては、会場外にも、会場内にも案内板を立てることができなかったこと、受付の位置についても産業振興センター側と随分とやり取りがあったことなどがありました。また、会場内の掲示も壁には用紙等を張ることさえもできず、それぞれの発表会場の案内には、元々の部屋のプレートに案内の紙を下げる方法をとるなどの工夫がありました。各部屋の無線LANも我々が設定するなど、大会運営側としては、小さなことながら、大学で開催する場合とは異なる苦勞がありましたが、すべて、大会実行委員の皆様のご努力によって解決することができました。

9. おわりに

今回の全国大会を通じて、情報科に求められる教育や情報科が目指すべき教育が数多く語られたと確信しています。今大会での講演・発表・議論・討論が明日の情報科の糧となったものと考えています。次期学習指導要領の告示が目前に迫っている中、今大会として、情報科教育の必要性や重要性を未来に対しても、アピールできたことを大変嬉しく思っています。

最後に、この場をお借りして、ご協力、ご支援いただいた各企業様・団体様に厚く御礼申し上げます。また、今大会が成功しましたことを、参加者および関係者の皆様にご覧いただき、心より感謝いたします。